

Title	中国朝鮮族のアイデンティティとメディア利用との関係
Sub Title	
Author	金, 雪(Kimu, Soru)
Publisher	三田社会学会
Publication year	2009
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.14 (2009. ) ,p.144- 144
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大会報告要旨
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20090000-0144">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20090000-0144</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

---

## 中国朝鮮族のアイデンティティとメディア利用との関係

金 雪

---

現代社会においてメディアは日常生活に深くかかわっており、その影響から逃れることができない。多チャンネル・多メディア環境に関しては、その社会的影響というマクロな視点から、メディア利用行動というミクロな視点まで様々な領域で議論が展開されている。それと同時に、メディア利用とアイデンティティに関する議論も高まっている。本報告は中国朝鮮族のメディア利用実態に焦点を当て、朝鮮族のアイデンティティ構築過程を考察することを目的としている。朝鮮族は中国に居住する 55 少数民族の一つである。中国朝鮮族総数は 200 万人であり、なかでも 80 万人が延辺地域に集中している。本報告は中国朝鮮族のメディア利用実態に焦点を当て、朝鮮族のアイデンティティ再構築過程を考察することを目的としている。中国の改革開放政策以降、中国朝鮮族社会におけるメディア環境は、多チャンネル・多メディアという方向に急激に変化している。特に、1996 年 7 月 1 日、韓国政府が打ち上げた衛星「コリアンサット」によって、朝鮮族が集中的に居住している延辺地域は韓国衛星放送の電波到達範囲に入ったため、家庭用パラボラ・アンテナを設置すれば、韓国の衛星放送を自由に視聴できるようになった。本報告はますます複雑化しているメディア環境の中で、延辺地域の朝鮮族がメディアを通して何をどのように経験したか、また個人のアイデンティティとメディア利用とはどのような関係があるのかについて分析した。

本報告では分析の方法として、2004 年から 2005 年にかけて延辺地域で実施したインタビュー調査、質問紙調査に基づいて収集したデータに対して分析を行った。インタビュー調査は大学生、記者など合計 8 名を対象に、質問紙調査は延辺テレビ局の職員、延辺大学などの教員と学生を対象に、朝鮮族の人口統計学的特性、メディア利用実態、朝鮮族意識について尋ねた。配布した質問紙 200 のうち、回収したのは 177 であった。朝鮮族のアイデンティティとテレビ視聴との関連について検討した結果を見ると、朝鮮族意識の高い群が中国中央 1 TV をより利用することが明らかになった点である。その一方、韓国の衛星放送の利用については朝鮮族意識とはあまり関連せず、ドラマなど娯楽番組をよく利用することがわかった。また朝鮮族は韓国人と同じ民族だと認識しながらも、韓国人としての意識は低いこともわかった。朝鮮族の延辺 1 TV に対する評価については、番組内容については自分たちの日常生活に基づく独自の番組を放送すべきという主張が多く見られた。つまり、中国朝鮮族は中国国民として生きるのに必要な情報を得るために中央 1 TV を、韓国人としての朝鮮民族の伝統文化（礼儀作法や習慣）を継承するために韓国衛星放送を、そして朝鮮族としての自分らしい文化を追求するために延辺 1 TV をそれぞれ活用し、そうした期待を持って各テレビ番組に接していると考えられる。

(きむ そる 慶應義塾大学大学院法学研究科)